

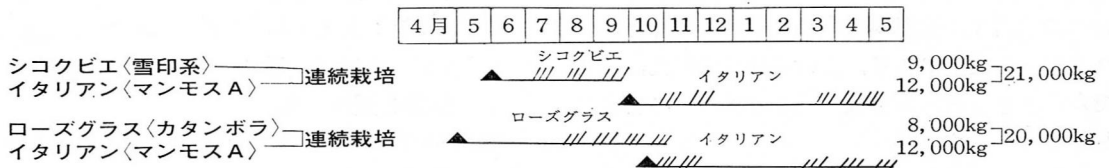
府県秋まきで定評のあるイタリアンライグラスの多収穫栽培

① 夏型飼料作物とマンモス A・B の組合せで10アール20トン穫り (関東地方の例)

組合せ 作物名	播種量 (kg)	播種 方法	基 肥 (kg)				追 肥 (kg) 化成肥料(NK)	栽 培 暦												収 量 (kg)	合 計 (kg)								
			堆肥	石灰	燐	化成肥料		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月										
マンモス A	3.0	散播			50	100	120 (刈取後4回分施)				3	4	5														12,410	21,830	
スイートソルゴー	3.0	条播	4,000	300	50	150	150 (刈取後2回分施)										1	2	3								9,420		
マンモス A	3.0	散播			50	100	120 (刈取後4回分施)				3	4	5															12,410	21,945
ハイ・スーダン	5.0	散播	4,000	300	50	150	150 (刈取後2回分施)										1	2	3								9,535		
マンモス B	3.0	散播			50	100	100 (刈取後4回分施)					4	5															11,300	19,770
とうもろこし	3.0	条播	4,000	300	50	150	50																				8,470		
マンモス B	3.0	散播			50	100	100 (刈取後3回分施)				3	4																11,300	22,080
とうもろこし スイートソルゴー 混播	4.0 5.0	散播	4,000	300	50	150	150 (刈取後2回分施)																				10,780		

▲……播種期 —……生育期 //……収穫期 数字……刈取回数

② 暖地型牧草とマンモス A の連続栽培でも20トン以上の高収量



★連続不耕起栽培……イタリアン播種量3～5kgと十分な追肥で定着が良く多収。

労力的に忙しいとき、土壌が乾いているときなど便利。

★耕起輪作栽培……糞尿の土壌還元、高収量を望む場合は前作物収穫後、直ちに耕起し輪作栽培。

③ 暖地型多年牧草へマンモス B を追播

- ダリスグラスまたはバビアグラス主体草地へイタリアンを毎年秋に追播し、早春から飼料生産を計る。
 イタリアン追播の時期—10月(暖地型牧草の生育が衰退するころ)
 イタリアンの種子量—10アール当り4キロ前後
 イタリアンの品種—早中生系(ワセヒカリ、マンモスB)
 肥料—イタリアンが過繁茂し、暖地型牧草を被圧せぬよう少なめに。
 生草収量(10アール)—暖地型牧草 7,000キロ + イタリアン 7~8,000キロ

④ イタリアン(マンモス A) の周年栽培による高生産

- 東北部、北関東、北陸、高冷地など年平均11~13℃の地域で、イタリアンの周年栽培が普及しています。
- マンモス A は夏枯れ、冬枯れに強く、周年栽培にも向く最適品種。

マンモス A の周年栽培で14.7トンの収量 (播種期: 9月上旬)	イタリアンライグラス(マンモス A)	11月24日~翌年10月21日(年7回刈)	生草14.7t(乾物1.9t)
	イタリアンライグラス(オオバヒカリ)	同 上	生草11.7t(乾物1.6t)
	オーチャードグラス	同 上	生草10.0t(乾物1.5t) [草地試、年平均気温12.1℃]

⑤ 水田、畑地の裏作にもマンモス A を

イタリアンを早めに播種し年内2回刈、翌春2~3回刈で高位生産

イタリアン(マンモス A) の播種期と収量(kg / 10アール)							合 計
播種月日	11月	12月	3月	4月	5月	6月	
8月30日	1/4 2,370	1/21 810	1/30 1,350	1/30 3,940	1/30 2,730		11,200
9月15日	1/10 2,390	1/21 610	1/30 1,430	1/30 3,880	1/30 2,760		11,070
9月30日		1/3 1,130	1/24 1,480	1/30 2,660	1/30 2,290		7,560
10月15日			1/24 1,610	1/30 2,250	1/30 2,750		6,610